

特記仕様書

1. 現場調査

(1) 流量測定調査

- ・事前に流量測定を行い漏水状況の分析をした後、漏水調査を実施すること。
- ・調査および修理終了後、中間の流量測定を行い漏水量の分析と、さらに漏水状況の分析をして漏水位置を絞り込んで漏水調査を実施すること。
- ・事後の流量測定を行い漏水状況、漏水量の分析をして結果を報告すること。
- ・流量測定は、着手後2か月以内、契約完了日前2か月以内とその中間で実施すること。
- ・発注者が監視する各水系の送水量、配水量の変動により、監督員または担当事業所から要請があった場合は、必要に応じて流量測定を行い原因の究明を行うこと。
- ・流量測定は12か所以上の同時測定が必要となる。なお、測定は超音波流量計で行うことを基本とする。

地区名	同時測定	管種	口径	箇所	備考
御津地区	A	SSP	400	1	
	A	SP	250	1	
	A	SP	350	1	
	A	DIP	150	1	
	A	SP	150	1	
	A	DIP	150	1	
	A	DIP	200	1	
	A	SP	200	1	
	A	DIP	150	1	
	A	DIP	150	1	
	A	DIP	100	1	
	A	DIP	75	1	
	B	DIP	150	1	
	B	SP	150	1	
	B	DIP	75	1	

(2) 戸別音聴調査

- ・調査件数は、調査済、留守、拒否及び不明に分類し、集計して提出すること。
- ・現地調査後、メーター不明箇所については、20件程度まとめて監督員へ報告し、その指示に従うこと。
- ・弁栓の鉄蓋を開閉した後は、鉄蓋枠内の砂等を取り除き確実に閉めること。

(3) 弁栓音聴調査

- ・調査対象は、路面音聴調査対象管路の弁栓類とする。
- ・弁栓の鉄蓋を開閉した後は、鉄蓋枠内の砂等を取り除き確実に閉めること。

(4) 路面音聴調査

- ・調査対象となる管路は、口径φ350mm以下で昭和の管路（铸铁管を除く）とする。
- ・別途発注者が指定する管路も調査対象とする。

(5) 漏水確認調査

- ・漏水位置確認のためのボーリングによる穴の補修は、ロードキャップ・レミファルトを充填し、路面の凹凸が無いようにすること。
- ・漏水音を探知した場所に、測量ピン（青色）を打ち、周りをスプレーで「ロ」と標示し、漏水調査報告書へ記入すること。
- ・ボーリング作業の実施に当たっては、地下埋設物に損傷を与えないように十分に留意すること。

(6) その他

- ・調査中は、発注者から貸与された業務従事者証を常に携帯し、民地に立入る場合は、業務従事者証を提示し了解を得ること。また、その他の場合においても住民等から請求されたときは提示すること。
- ・履行期間内は、履行場所において漏水が発生した場合、発注者の指示により漏水箇所を特定するための位置探知作業を迅速に行うこと。

2. 漏水調査報告書の提出

- ・道路漏水については、配水管の管種、口径、弁栓類及び道路状態（舗装等）を詳細に記入し報告すること。また、宅地内・個人所有管・受納管においても同様とする。
- ・給水装置での漏水は、水道番号及びメーター番号を報告書に記入すること。
- ・漏水発見後、速やかに報告書を担当課所に提出すること。
また、修繕工事の現場に立会し、漏水量の確認を行うこと。
- ・宅地内漏水については、報告書に必要事項（特に電話番号）を記入のうえ、水道局から要請があれば立会に応じること。また、使用者には漏水箇所の報告だけを行い、詳細については、後日水道局の担当者から連絡があることを伝えること。
- ・排水管による常時放水、臨時放水箇所を発見した時は、報告書に位置図を添付し提出すること。

3. 完了報告書

- ・調査完了後、調査結果は分析表（漏水原因別、管種別漏水件数、漏水復元状況等）を作成し提出すること。また、前回の調査実績と比較、検討し報告すること。
- ・現地のメーター及び弁栓の位置が、都市情報出力図の記載と異なる場合は、朱書き訂正して報告すること。